



フィグ・ヤーパン通信

第 32 号

FIGU-JAPAN BERICHT, Nr.32

発行日 2007 年 10 月 1 日

発行 フィグ・ヤーパン <http://jp.figu.org/>

全国読者集会 もうすぐ開催です

フィグ・ヤーパンでは、11月に開催予定の2007年度全国読者集会の開催に向けて準備を進めています。今年度で第9回目となった全国読者集会では、最新のセミヤーゼ・シルバー・スター・センター訪問報告、近年のコンタクト記録から重要事項を抜粋した記事の紹介、新刊書『プレアデス/プレヤール人とのコンタクト記録(4)』の先行販売、『心』(水瓶座時代出版刊)の出版を記念した懇談会を開催する予定です。

読者集会はどなたでも参加できますので、どうぞ奮ってご参加ください。参加を希望される方は、フィグ・ヤーパンまで、葉書、ファックス、Eメール等にて、氏名、連絡先住所を添えてお申込みください。お席にはまだ十分余裕があります。読者集会は多くの仲間との出会いや親交を深める絶好の機会です。多くの読者の皆様のご参加を、心からお待ちしています。

日 時 11月23日(金)
13:00～15:30(16:00～懇親会)

会 場 日本青年館会議室
東京都新宿区霞岳町15番地
電話 03(3401)0101
最寄り駅 JR総武線 信濃町駅または
千駄ヶ谷駅より徒歩9分

参加料 300円(懇親会 2,000円)

主 催 フィグ・ヤーパン

神保町ブックフェスティバル

フィグ・ヤーパンが運営する水瓶座時代出版では、10月下旬に開催される、神保町ブックフェスティバルに出店することになりました。この催しは、東京近辺を中心とした数多くの出版社が集まって、古本や新刊本を展示即売する大きな行事です。千代田区と神田古書店連盟が主催する、今年で48回目となる恒例の神田古本まつりとの協賛事業として行われます。古本まつりは、参加店約100店舗が100万冊の古書を陳列する、東京の秋の風物詩として有名な行事で、毎年全国各地から多くの人々が訪れて賑わいを見せています。

読書の秋、世界一の規模を誇ると言われる日本の古本屋街を歩いて、水瓶座時代出版の展示を探してみませんか。水瓶座時代出版の展示を見つけたら、スタッフにもどうぞ声をお掛けください。読者の皆様との本を通じての出会いを、スタッフ一同楽しみにしています。

日 時 10月27日(土) 10:30～18:00
10月28日(日) 10:00～18:00

会 場 神田古本屋街周辺
すずらん通り、さくら通り、小学館、
集英社広場前
最寄り駅 JR 御茶ノ水、水道橋、
東京メトロ 御茶ノ水、都営地下鉄 神保町

主 催 神保町ブックフェスティバル実行委員会

http://jimbou.info/news/book_fes07.html

新刊書『プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録（4）』のご案内



プレアデス／プレヤール人との
コンタクト記録（4）
(水瓶座時代出版刊)

装丁：A5判 ソフトカバー
頁数：308 ページ
定価：2,000 円（税込み）
発売：12月1日

書籍重量は、ホームページまたは次号
のフィグ・ヤーパン通信にてお知らせ
いたします。（現時点で注文は受け付
けておりませんのでご注意ください。）

フィグ・ヤーパンでは、コンタクト記録シリーズの第四弾となる、『プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録（4）』の出版に向けて、最終的な準備作業を進めています。発売開始日は、12月1日を予定しています。ご注文の受付は、準備が整い次第ホームページ上で、そして次号のフィグ・ヤーパン通信第33号（1月発行）にてお知らせします。

『コンタクト記録（4）』には、1953年から1964年にかけて実施されたアスケットとの会見記録をはじめ、1975年にセミナーゼと実施された第34回会見記録までが収録されています。アスケットとの会見記録では、ビリーがアスケットの宇宙船に乗船して地球上や宇宙の各地を訪れた時の様子や、過去への時間旅行を行った際にイマヌエルと面会した時の様子等が詳細に記されています。さらに、アスケットがビリーに語りかけた言葉あるいはビリーを通して我々地球人に対して語りかけた予言を含む言葉が収められています。

ここでは、第31回会見に収録されている、アスケットの言葉から、その一部をご紹介します。

.....

アスケットの説明（1964年）

1. 創造は生命と実存在の基礎です。
2. 私たちは創造の力の中で私たちのミッションを果たしますが、それはひとつの宇宙のみならず、全宇宙的な意味を持っています。なぜなら創造は生命であり、実存在だからです。
3. 私たちのミッションを果たすためには、私たち

とあなた方の宇宙の時空構造のバリアを無効化させて、宇宙船や宇宙が損傷を被ることなくスムーズに通過できるようにしなければなりません。

4. なぜなら私たちの故郷の世界は「ダル宇宙」の「アコン系」、つまりあなた方地球人の知らない一つの宇宙の、やはり地球人には知られていない一つの系に属しているからです。これらの宇宙の幾つかは、あなた方も知っている宇宙の七番目の外側層を包囲しています。

5. 多くのこれらの宇宙は別の時間水準にあり、あなた方にとって全く異質の空間に存在しています。

6. 私たちの宇宙はあなた方の宇宙と平行な姉妹宇宙、言うなれば双子宇宙であり、あなた方の概念に従って計算するならば同じ水準に位置しています。

7. あなた方の時間と私たちの時間の差は、ほんのわずかなのです。

8. 私たちがあなた方のこのデルン宇宙に来たのは、数百年と計算される遠い昔に、あなた方のデルン宇宙から太古の昔に飛来した私たちの種族が、旺盛な研究心を持ち、義務を遂行したことに由来します。

9. 何千年も前に失われた知識を再び習得することによって技術が発展し、私たちとあなた方の宇宙の間に横たわる太古のバリアを再び開くことが可能となり、あなた方の時間に入ることができました。

10. それ以来私たちは、再び広大なあなた方の宇宙をすみずみまで調査し、数百年前にこの太陽系と、そしてまたこの世界を発見しました。この世界の住人はあなた方がある理由からプレアデス人と呼んでいる人間と大変古い時代から結び付いており、その結び付きに私たちも巻き込まれています。ミッションという点でもそうです。

11. 正確に言うと、あなた方の時間計算に基づく世紀を33連ねた年数にわたって、私たちはあなた方の宇宙を再び旅行し、調査することができたのです。

12. たゆまず研究を続けた結果、私たちはこの世界で私たちの原故郷を再び発見し、そしてこの世界の人間の生命に関わり合った者たちの非常に遠い末裔も発見しました。というのも、地球の人間の一部はここで生まれたのではなかったからです。

Q&A

質問と回答

□読者の質問

「超感覚的」という概念は本来何を意味しているのですか。それは正確にどのようなものであり、どんな働きをするのですか。この超感覚的なものことは、よく耳にします。特に超感覚的なものを通して霊を見るとか、死者が話すのを聞くとか、死にかけている人間から呼びかけられるなどと言います。これらのことはどのように考えるべきでしょうか。私自身にはそのようなことは一度も起こったことがありませんが、知人は経験があると言います。これについてより正確なことを教えてもらえますか。

R. シュトレスラー (スイス)

□ビリーの回答

この質問に対する回答はかなり広範なものになる。というのも全体を簡単に数語で片付けることはできないからだ。あなたの関心を満たすために霊の教えから教材の一部を引用しよう。そこでは次のように説明されている。

超感覚的なもの、微細物質感覚、生気力

「超感覚的」という概念は、誤った言葉である。この言葉は、知覚できないものを表すために用いられる。知覚できないものは人間にとって通常の物質的なもの、もしくは粗大物質感覚的なものの外にあり、したがって物質的な知覚能力の外、すなわち微細物質の領域にある。微細物質すなわち生気を超感覚的と言いつつするのは根本的に誤りである。なぜならば人間の感覚で知覚できないようなものは、人間にとって存在しないからである。微細物質は、粗大物質感覚の外で微細物質感覚の領域に属しているだけのことである。ここで特に問題となるのは、微細物質的な想念振動の作用に関することである。このような想念振動は、その微細物質的な性格のゆえに生気エネルギーまたは生気力と言いつつされる。この想念振動は想念と感情によって生み出され、脳の外でも多様きわまりない作用を生じさせ、これらの作用は他の人間が知覚することもできる。こうした生気エネルギーとその力は、テレパシーや空中浮遊やテ

レポーテーションに関係したエネルギーだけでなく千里眼や遠隔知覚にも関係している。この場合、それぞれの要素は個々人によって種々の現象形態で現れる。読心術や本来のテレパシー、その他すべての神経生理学的な要素において、瞑想の場合と同様、アルファ波が重要な役割を持っている。というのは想念流を通してアルファ波が2つの大脳半球を同期して流れるからである。アルファ波はイメージを加工したり思い浮かべたりするときも活発になる。催眠状態やトランス状態などでも見られるように、これは脳がいわゆるアルファモードに切り替わったときに起こる。

想念と感情は脳の中だけで展開されるのではなく、脳の外でもテレパシーの形で3光秒(約900,000キロメートル)「送信」され、別の適当な脳に受け取られて理解される。想念から感情も生じるので、人間は愛する誰かを突然失おうとしているか、または失ってしまったことを感じることもできる。同様に人間は突然自分が、遠く離れた人間や近くで生きている人間から必要とされていることも知る。背中に「刺すような」視線を感じたり、コップが不可解に割れたり、物が原因もないのに落下したりするのもこれに属している。これらの現象の原因は、たいていある特定の人間の強力な想念流と、そこから生まれる光速に等しい微細物質の電磁的振動もしくは生気エネルギーである。この人間はある瞬間に強い想念を特定の人物(または人物群)に向け、そして相手の人物がこれらの振動を知覚して、伝達されたものを認識する。このように1人の人間が強力な想念流によって生気エネルギーを放ち、それがこの人間とつながっている別の人間によって知覚され、予感として捕らえられたり、正しく解釈されたりするのである。しかもこの能力は誰にも備わっており、脳の中枢で視覚刺激などを知覚する松果腺(間脳の上部に位置する腺: 上生体)が正しく機能することによって起こる。しかしこの場合常に、人間がこの要素の能力を歪めていないということが前提となる。事実、松果腺はまったく別の周波数領域で微細物質の電磁場を検出し、あるいはセンサーのように感知して確認し、情報を受け取ることができる。これは背中や首筋に感じる「刺すような」視線に関しても同じように作用する。すなわち、観察者の想

念振動の結果として、背中や首筋に視線が向けられている事実が松果腺によって認識され、その情報が意識に到達するのである。

想念界の生気振動は超感覚的なものとは関係ない。なぜなら、超感覚的なものは存在しないからである。想念の生気振動は、「微細物質感覚的なもの」と呼ばれる要素に基づいているが、これは超感覚的なものではない。超感覚的なものは実在しないから

である。このように言うのは、微細物質感覚的なものは第7の感覚もしくは感受によって知覚できるからである。したがってそれは、粗大物質感覚によって知覚できるものをはるかに越えて出ている。遺憾にも人間は五感(聴覚、視覚、触覚、味覚、嗅覚)のみを前提としているが、7つの感覚が存在する。他の2つは感受と感情である。感情は本能と関係しており、根本的に想念界と結びついている。

(次号に続く)

— UFO 地球外からやってきた宇宙船 —

イマヌエルまたの名をイエス・キリスト 地球外生命体は彼について何と言っているか？

すでに以前にスファートとアスケットがしたように、セミナーゼもイマヌエルについて同じ内容の表明を行った。すなわちイマヌエルはパレスチナで活動した時代から約150年後に、誤ってイエス・キリストと呼ばれた。実のところこの名前は彼が実際に約115歳で死んだ後、彼になすり付けられたのである。同様に彼の母親マリアも421年にエフェソスの公会議で初めて「神聖」とされた。地球外生命体がイマヌエルという人物について語っている言葉を聞こう。

1975年3月18日 第8回会見

セミナーゼの説明

204. いいえ。
205. イマヌエル自身はただの人間であり、他の人間とまったく変わるところはありません。そのことは、私よりよくご存知のはず。
206. 彼はただ膨大な知識を身につけていたにすぎません。
207. 象徴でも偶像でも他のどんなものでもありません。
208. 彼は確かに教師ではありました。つまり霊と意識に関する知識や英知を人々に伝える預言者でした。でもそれ以上の何者でもなかったのです。
209. いかなる生命形態も決して偶像化したり、ましてや崇拜したりしてはならないのです。人間はそれをよくやりますけれど。

210. 私たちが二千年にわたって人目につかない場所に隠されてきた『タルムード・イマヌエル』を発見させた理由はただ一つ、真理の時が到来したからなのです。

211. イマヌエルの教えは彼自身の教えではなく、彼自身もまず学び、認識し、受け入れなければならなかった創造とその法則の教えなのです。

212. それによって彼は自然の法則が要求する事柄を人々に告げたにすぎません。

213. イマヌエルを、彼がもたらした教えの権化とみなして偶像化するという、狂気の過ちを二度と再び犯してはなりません。

214. イマヌエルの名を引き合いに出したり、イマヌエル自身を讃えたりすることなく、『タルムード・イマヌエル』の真理は真理として学び、認識すべきなのです。

215. 重要なのは真理と法則だけであって、この教えや真理と法則をもたらした人物ではありません。

216. したがって、イマヌエルを中心とするカルトが再び築かれるならば、目的は達成されなかったことになるでしょう。

217. イマヌエルという人間がこれ以上礼賛の対象となってはならないのです。唯一、真理と法則だけが何よりも重要なのですから。

以上が地球外生命体の言葉である。これは他の数え切れない宗教的な主張よりも多くのことを語っている。宗教的な主張は信者を意識の貧困へと追いやるものでしかない。

なぜ私はUFOコンタクティーとして

DUISTウィースバーデンと共に活動しないのか

アニーとカールL. ファイトを個人的に知って、彼らがUFO啓蒙活動に熱心に従事しているが、まさにこの重要な使命を、けっして地球外生命体の利益にならない目的のために乱用していることを残念ながら確認した。ファイト夫妻は非常に教派的・宗教的であり、すべてのUFOレポートなどを宗教的な形態に押し込み、そしてそれらをそのままベントゥラ出版社で書物に印刷させる傾向がある。それゆえ非常に多くのことが捏造され、真理と言えるものはほんのわずかしかない。UFOに関して本来広まるべき現実的な客観性については言わずもがなである。

簡明に言うと、ファイト夫妻は1975年10/11月にヴィースバーデンで開催された会議に私を招待し、そこで2回講演するよう依頼された。しかし彼らはそのために私が言ったり説明したりしなければならぬことや、黙っていなければならないことなどについて規則を課した。しかも彼らはよりによって、UFO会議の参加者にとって決定的に重要な意味を持っているすべてのことについて発表することを禁じたのである。すなわちそれは、地球外生命体は地球のカルト的宗教とは相容れないという事実である。その逆に、私は会議で参加者に嘘を教え、イエス・キリストが宇宙の支配者であり、主であり、神であること、そして地球外生命体はきわめて宗教的な事柄について教示するために、地球のカルト宗教を代表してやってくるということを、信じ込ませなければならないということになっていた。しかしこれが地球外生命体によって否定され、排斥されるものであることは絶対明白である。なぜなら彼らは地球の宗教を忌み嫌っているからである。宗教の狂気はすでに宇宙に持ち出され、それによって死と滅亡、さらには惑星や小宇宙の破壊を招いているのだ。

もちろん私はヴィースバーデンのUFO会議1975の参加者に嘘をつくことを拒んだ。するとアニーとカール・ファイトは私を即座に会議の出席者名簿と名誉会員から削除したまま、黙り込んでしまった。したがって私はDUISTの会員ではない。

私がここで行った主張はいつでも証明できる。なぜなら今言ったことをすべて書いた、アニーとカー

ル・ファイトのオリジナルの手紙を持っているからだ。これらの手紙はいつでも私のもとで閲覧できる。そうすれば誰でも私の言葉が正しいと納得するだろう。

UFOコンタクトだけではない…

特別のミッションと結びついているUFOコンタクトの他にも、別のコンタクトを挙げなければならないが、それらも地球外生命体によって導入されたものである。それは地球人にとって貴重なメッセージを私に伝える、最高水準の霊体とのテレパシーによるコンタクトである。それらのメッセージは大部分が、人間に当の昔に失われた霊の教えである。このように私は非常に高度な私・我々霊体とコンタクトを取っている。この霊体はペターレと呼ばれ、創世記(創造の教え)と並んで十戒(十の掟)も原初のままの形で私に伝えた。しかしこのコンタクトはコミュニケーションという点で言えば、一方的な企てである。というのも私は受信器としてのみ機能し、送信器の働きは持たないからだ。つまり私はテレパシーによるメッセージや伝達を受け取ることができるだけで、問い返すことはできない。なぜならこの霊的なペターレ水準は私自身の能力にとってあまりに高すぎ、およそ物質的な生命体によって話しかけられることはあり得ないからである。我々に非常に貴重なメッセージを伝えた、アラハト・アテルザータと呼ばれる他の霊的な生命体についても事情は同じである。

それらのコンタクト記録、メッセージ、伝達などは、タイプマシンで何千ページにも及び、本として印刷され販売されている。しかしセミヤーゼ・レポートはある理由から完全に再現することはできない。



(出典：UFOs Raumschiffe von fremden Welten)

スイス訪問取材日記（2007年5月3日～6日）その2

近内 徹・木下 治

この日の夜、私たちはスイスメンバー全員の食事会に招待される。センターから車で30分ぐらいの綺麗な郊外のしゃれた感じのレストランであった。メンバー全員は来ていなかったが、たくさんのメンバーに一人一人自己紹介と挨拶をされる。名前の発音が難しく大勢なのでほとんど名前は覚えられなかった。出された食事で少し驚いたのは、かなりの厚い馬肉のステーキに親指大のフライドポテトがたくさん盛り付けされていて大胆な料理だと思った。

ビリーは片手でフォークを器用に使い、それらを食べていた。グラス一杯のワインやビールなどもあり、終始和やかな食事会であった。



シュテファン曰く、「我々が日本に行くよりもFJメンバーがスイスに来る方が収穫があるのでは」「では毎年交互に行き来しますか！」と返答する。帰る時には雨が降っていた。山岳地帯のせいか天気は変わりやすいようである。

翌5日はメンバーへのインタビューと夜に行われる平和瞑想の撮影である。多忙な中、クリスティーナさん、ベルナデッテさん、シモーネさんがそれぞれ我々の撮影に協力してくれる。瞑想に関するインタビューは通訳のシュトラッサー氏を通して質疑応答の形で行われた。ビリーへのインタビューも予定されていたが、生憎プターとの会見が入り、撮影はシモーネさんの代読という形になる。

夜は実際の平和瞑想の撮影をする。20名弱のメンバーやメンバー以外の方たちが一堂に集まり、1回目の平和瞑想の準備をしていた。各自の椅子に座り自分の誕生石を身につけ平静にしている。私たちは撮影のため部屋の隅に機材を設置し、収録を始める。合図とともに瞑想が始まる。発声は思っていたよりゆっくりで、各人それぞれのテンポで唱えてい

る。20分経過後合図とともに終了。その後2回目の平和瞑想の撮影まで私たちは外で待機する。その間メンバーたちはミーティングを行うとのことであった。2回目が始まる10分ほど前に再び部屋に入り、今度は機材を固定して無人で収録させ自分も平和瞑想に参加する。どなたかの瞑想用の椅子を借り、それに座ってやったので姿勢は楽であった。日本でもこのような椅子を製作できれば良いと思った。初めて集団での平和瞑想であったが自分の唱えるペースも気にしつつ、周りの唱える声も気になる。20分間の貴重な体験ができた。

翌6日は日曜日で、センター滞在の最終日である。フライホフで最後の朝食をとり、チェックアウト後センターに向かう。ビデオ収録は一通り終えたのでセンター周りの写真撮影をたくさんする。ギドーさんが入り口のソファに腰掛けていた。日曜日はセンターが一般開放される日で、障害者の方などの団体客が施設を見学していた。いよいよお別れの時で、何人かのメンバーと挨拶をし、感謝とまた来ることを伝える。あつという間の4日間であり、少なくともあと1週間は滞在していたかった。シュテファンとシモーネが車で迎えに来てくれ私たちをホテルまで送ってくれる。彼らともここでお別れである。



センター訪問での全体的な印象は、まずメンバーたちは親切に、フレンドリーに、私たちを出迎えてくれたのでとても好印象を持つことができた。施設の雰囲気も日本では硬い印象を持っていたが実際には柔らかく親密に感じた。ビリーにも会う前は何かまえてしまう印象を持っていたが、何度か見かけているうちにごく普通の人であり、他のメンバーたちとなんら変わらない感じがした。（おわり）

フィグ・ヤーパンからのお知らせ

□ 全国読者集会在開催されます □

巻頭にてお知らせしましたように、来る11月23日（勤労感謝の日・祝日）、9回目となる全国読者集会を開催いたします。会場は都心部に程近く、交通の便が良い日本青年館（JR総武線・信濃町駅、千駄ヶ谷駅）です。

当日は近刊予定の『心』（水瓶座時代出版刊）をテーマとした懇談会を開催します。さらに当日会場では、12月1日発売予定の新刊書『プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録（4）』（水瓶座時代出版刊）を先行販売する予定です。

読者集会はどこでも参加できます。参加を希望される方は、フィグ・ヤーパンまで、葉書、ファックス、Eメール等にて、氏名、住所を添えてお申込みください。お席にはまだ余裕がありますので、皆様お誘い合わせの上お越しくださいますよう、お願いいたします。

□ 神保町ブックフェスティバルに出店 □

水瓶座時代出版／フィグ・ヤーパンは、10月27日（土）、28日（日）に東京の神田古本屋街で開催される神保町ブックフェスティバルに出店します。この催しは、日本中の多くの出版社や古本屋が参加して行われる、東京の秋の風物詩として有名で、例年多くの方が訪れて賑わっています。

水瓶座時代出版では、多くの出版社と共に、小さなコーナーを設けて書籍類の展示即売を行います。フィグ・ヤーパン通信を見ていらした方は、当日、スタッフにお気軽に声をお掛けください。本を介しての顔の見えるお付き合いを、スタッフ一同楽しみにしております。

□ 出版支援のお願い □

これまでに多くの方から翻訳出版のご支援をいただきましたが、秋以降に出版を予定している書籍が複数あり、費用が十分に確保できていない状況です。このため、新たな翻訳着手を留保し、出版にかかる費用を優先して確保しています。日頃からのフィグ・ヤーパンの活動へのご理解ご協力に感謝いたしますと共に、今後とも引き続きご支援くださいますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

□ これから出る本 □

コンタクトシリーズ4作目の『プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録（4）』、人間の精神的な機能について霊的な側面からも詳しく解説されている『心』については、最終的な校正、版下作成作業が進行中です。11月の全国読者集会開催と同時に発売できるように準備を進めていますので、どうぞご期待ください。

『アラハト・アテルザータ』、『地球外知的生命プレアデスとのコンタクト 宇宙の深遠より』についても、翻訳校正を実施中で、来年上旬の水瓶座時代出版からの出版に向けて準備が進められています。

一冊でも多くの書籍を早く出版できるよう、スタッフ一同、ボランティアで日夜努力しています。校正をお手伝いいただいている、ボランティアスタッフの皆さんにも感謝申し上げます。

□ 図書館への書籍の寄贈等について □

フィグ・ヤーパンでは、より多くの方に、フィグ・ヤーパンの本に接する機会を持っていただくため、全国の公共図書館等を対象として、書籍の寄贈等を行う活動を実施中です。一般的に、公共図書館では、来館者に対して購入を希望する書籍の申し込みを受け付けています。そこで、読者の皆様から最寄の図書館に購入依頼をしていただくと同時に、フィグ・ヤーパンが寄贈等の活動を行っていることをご担当の方にお知らせください。その後、図書館からフィグ・ヤーパンの書籍の購入申し込みをしていただくか、寄贈の申請をしていただくことで、書籍を図書館に導入することができます。

□ 匿名による問い合わせについて □

これまでしばしば、書籍や活動の内容に関して、電話、Eメール等による匿名の問い合わせを受けることがありましたが、フィグ・ヤーパンでは、原則として匿名での問い合わせを受け付けておりません。フィグ・ヤーパンの書籍や活動に関連してご質問がある方は、氏名と連絡先をお知らせいただいた上で、お問い合わせくださいますよう、ご協力お願いいたします。

出版物のご案内

■プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(1)

価格 2,000 円 (税込 送料別 375 グラム)

■プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(2)

価格 2,000 円 (税込 送料別 440 グラム)

■プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(3)

価格 2,000 円 (税込 送料別 335 グラム)

■瞑想入門

価格 3,200 円 (税込 送料別 815 グラム)

■わずかばかりの知識と知覚そして知恵(新風舎刊)

価格 3,150 円 (税込 送料別 870 グラム)

■宇宙の深遠より 一地球外知的生命プレアデスとのコンタクト (徳間書店刊)

(現在、再版準備中につき、注文できません。)

■生命の哲学

価格 1,000 円 (税込 送料別 150 グラム)

■日本語版 水瓶座時代の声

価格 各 1,000 円 (税込)

83/2 号 (特集) (送料別 105 グラム)

87/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)

91/1 号 (特集) (送料別 135 グラム)

■第 235 回会見

価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)

■日本語版 FIGU 公報

6 号 価格 500 円 (税込 送料別 90 グラム)

30 号 価格 500 円 (税込 送料別 155 グラム)

38 号 価格 500 円 (税込 送料別 160 グラム)

■霊と肉体における生 (改訂新版)

価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)

■ビリーの少年時代の著作

価格 500 円 (税込 送料別 95 グラム)

■預言者エレミヤとエリヤの予告

価格 400 円 (税込 送料別 70 グラム)

■エノクの預言

価格 300 円 (税込 送料別 55 グラム)

■『瞑想入門』の手引き

価格 300 円 (税込 送料別 70 グラム)

■地球に平和あれ

価格 300 円 (税込 送料別 55 グラム)

■FIGUの原則あるいは人間の原則

価格 300 円 (税込 送料別 40 グラム)

※このページに掲載した以外にも多数の書籍があります。ホームページ等をご覧くださいか、フィグ・ヤーパンまでお問い合わせください。

□ 書籍のご注文について □

すべての書籍・ビデオ類のご注文は、郵便振替にて承っております。ご希望の書籍・ビデオ代金に以下の郵便料金を加えた金額を、お近くの郵便局から下記フィグ・ヤーパンの口座宛にお振込みください。なお、現金書留および切手同封による直接のお申し込みはご遠慮ください。

□ 郵便料金表 □

50 グラムまで 120 円	500 グラムまで 290 円
100 グラムまで 140 円	1000 グラムまで 340 円
150 グラムまで 180 円	2000 グラムまで 450 円
250 グラムまで 210 円	3000 グラムまで 590 円

※4,000 円以上お買い上げの場合、郵送料は無料です。

□ 振込用紙の記入欄 □

口座番号：00160-4-655758

加入者名：FIGU-JAPAN

(アルファベットで記入して下さい)

金額：送料を含めた合計金額

払込人：あなたの住所、氏名、電話番号

通信欄：購入する書籍名と冊数

フィグ・ヤーパン通信 第 32 号 (無料)

発行日 2007 年 10 月 1 日

発行 フィグ・ヤーパン (FIGU-JAPAN)

住所 〒192-0916

東京都八王子市みなみ野 3-11-2-305

電話 042(635)3741

FAX 042(637)1524

URL <http://jp.figu.org/>

E-mail info@jp.figu.org

郵便振替 00160-4-655758

加入者名 FIGU-JAPAN

本書の全部または一部を無断で複製複製することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。本書からの複製を希望される場合は、フィグ・ヤーパンにご連絡ください。

Copyright (c) 2007 by FIGU-JAPAN. All rights reserved.